

金山町教育大綱

平成 2 8 年 1 1 月 2 9 日

大沼郡金山町

金山町教育大綱

第2章 郷土を担う心豊かな人づくり

第1節 地域一体型ふるさと教育の推進

1. 幼児教育

(1) 現状と課題

人口減少と出生数の低下から乳幼児数は減少しています。

本町には、幼稚園がないため幼児教育の一端は保育所での保育が担っており、少子化対策の充実による平成26年度から実施した保育料の無料化により、0歳～5歳の乳幼児の保育所への入所率は平成27年度で91.7%と非常に高くなっています。

乳幼児をもつ保護者への対応としては、教育の原点は家庭にあることを自覚し、命の尊さ、やさしい心、思いやりの心、がまんする心、生活に必要なルールなど道徳心の芽生えを家庭と連携して培うことが重要になっています。

地域一体型ふるさと教育事業のもと、0歳から18歳までの教育の充実を明記していますが、0歳から5歳までの乳幼児期の教育支援については、就学時健康診断時の保護者向け講習会や保育所入所保護者を対象とした家庭教育学級のみで十分な体制とは言えません。教育分野、保健福祉分野、保育分野が連携を図り充実していく必要があります。

(2) 施策の方向

本町は少子社会を先んじて迎えており、地域住民がみんなで守り育てることができるよう、親の子育てを補完できる仕組みづくりを推進します。子どものしつけは親の責任で行い、幼児期に必要な生活の基礎を身につけさせるために家庭における教育力を向上させます。このため、保健活動や生涯学習、社会教育、公民館活動、学校教育などにおいて、家庭教育のアドバイスや相談のできる体制づくりを行い、幼児教育を進めます。

働く女性や核家族が増加していることから、保育所において十分にその役割を補完できるよう、保育内容の充実や保育体制の整備などに努めます。

(3) 実施事業等

- 家庭教育の指導・相談体制の強化
- 幼児教育相談体制の充実
- 子育て講座の実施
- 地域における子育ての補完体制の推進
- 保育の充実

(4) 数値目標 (KPI) ・ 行動指標

項目 (単位)	現状数値 (年度)	目標数値 (年度)
子育て講座等の実施回数 (回)	1 (平成 26 年度)	2 (平成 31 年度)

2. 義 務 教 育

(1) 現 状 と 課 題

地域一体型ふるさと教育事業のもと、0 歳から 18 歳までの教育の充実を図っています。義務教育分野においては、平成 26 年度より給食費の無料化、教材費の無料化、入学準備品支援（運動着、制服（各 1 セット）支援）、修学旅行支援を行っています。更に、平成 27 年度からはサマースクール等の児童・生徒への直接支援の充実を行っています。

急速な出生数の減少により小中学校の児童・生徒数の減少に拍車がかかっています。

これまでに多くの学校が統合を繰り返し、現在では、小学校は金山小学校と横田小学校の 2 校となり、中学校は金山中学校の 1 校となっています。

児童・生徒数の減少は、小学校における複式学級の増加、集団での活動の制限など、教育環境が年々変化し、適切な教育環境のあり方が課題となっています。

また、夫婦共働き家庭の増加や家に帰っても面倒を見てくれる保護者がいない家庭が増えており、男女雇用機会均等法や男女共同参画社会の進展により、女性が働く機会を確保することが大切である時代にもなっているため、「金小ゆうがたクラブ」や「よこたふれあい教室」により放課後の居場所づくりを行っています。

金山町の学校統合のあゆみ

	S46.4.1	S52.4.1	S53.4.1	S56.4.1	H 6.4.1	H21.4.1～		
小 学 校	水沼小学校			金山小学校	金山小学校			
	沼沢小学校							
	中川小学校							
	川口小学校	川口小学校						
	玉梨小学校							
	本名小学校	本名小学校						
	三 条 分 校							
	横田小学校	横田小学校						
	山 入 分 校							
	大塩小学校							
中 学 校	沼沢中学校		第一中学校			金山中学校		
	川口中学校							
	横田中学校							

(昭和 46 年～平成 27 年)

義務教育状況の推移

資料：学校基本調査（基準日：平成 27 年 5 月 1 日）

項 目		単位	S46	S56	H3	H13	H23	H27
小 学 校	小 学 校 総 数	校	10	3	3	2	2	2
	教 員 数	人	59	31	25	13	13	13
	児 童 数	人	687	336	214	62	62	41
	1 学校当たり児童数	人	69	112	71	31	31	20
	う ち 分 校 数	校	2	—	—	—	—	—
中 学 校	中 学 校 総 数	校	3	2	2	1	1	1
	教 員 数	人	30	20	16	9	9	10
	生 徒 数	人	439	205	102	48	48	32
	1 学校当たり生徒数	人	146	103	51	48	48	32
	う ち 分 校 数	校	—	—	—	—	—	—

平成 27 年義務教育の状況

資料：学校基本調査（基準日：平成 27 年 5 月 1 日）

項 目		児童数・生徒数	男	女	学級数	単式	複式	75 条	1 学級当たり児童・生徒数	教員数(講師含む)	職員数	卒業後の進路 (H27.3 卒業者)
小学校	金山小	30	16	14	3	0	3	0	10.0	7	2	
	横田小	11	8	3	3	0	3	0	3.6	6	2	
	計	41	24	17	6	0	6	0	6.8	13	4	
中学校	金山中	32	14	18	3	3	0	0	10.0	10	2	高校 9
合 計		73	38	35	9	3	6	0	8.1	23	6	

(2) 施 策 の 方 向

子供は地域の宝の理念のもと、地域一体型ふるさと教育の充実を図ります。

少子化の進行に伴い、本町の児童・生徒にとってより良い教育環境づくりを進めなければなりません。小学校は複式化が進み、金山中学校も生徒数の減少は依然として続くため、新たな教育環境の整備を模索しなければなりません。机上での主要教科の学習においては、少人数により個人の課題克服の指導が行える体制です。集団学習や社会性の学習については、学年やクラスの隔たりをなくし、町域を越えた他校との交流により補完していく必要があります。

本町ならではの環境のもとに、学校の創意と工夫を生かした特色ある教育を推進し、児童・生徒一人ひとりの才能を引き出し、地域に誇りが持てる教育が行われ、地域の信頼に応える学校づくりを目指します。学校と地域の資源や人材が連携して児童・生徒の学習の機会にしていきます。

川口高等学校との連携については、現在も中学校との連携をはじめとした小中高の学力向上のための事業を実施しており、今後もなお一層の充実に努めます。

(3) 実 施 事 業 等

- 地域一体型ふるさと教育の充実
- 複式学級に対応した町独自の講師配置の継続
- より良い少人数教育の在り方の研究と充実
- 先生方の教育現場や労働環境の充実・支援
- 支援員の配置と個性が尊重される教育の実践
- 地域を学びふるさとに誇りを持つ教育の実施
- 県立川口高等学校との小中高連携教育の継続と充実
- 教育環境の計画的な整備
- 遠距離通学への対応と安全を確保できる通学路・通学支援体制の整備
- 教職員住宅などの適正管理

(4) 数値目標 (KPI) ・ 行動指標

項目 (単位)	現状数値 (年度)	目標数値 (年度)
外国語指導助手招致数 (人)	1 (平成 26 年度)	1 (平成 31 年度)
いじめ・不登校・問題行動の発生 件数 (件)	0 (平成 26 年度)	0 (平成 31 年度)
児童・生徒に対する体験学習等の 開催件数 (件)	—	1 5 (平成 31 年度まで)
児童・生徒に対する体験学習等の 延べ参加者数 (人)	—	3 0 0 (平成 31 年度まで)

3. 高 等 学 校 教 育 等

(1) 現 状 と 課 題

地域一体型ふるさと教育事業のもと、0 歳から 18 歳までの教育の充実を図っています。高等学校教育分野においては、本町には、県立川口高等学校（普通科）が設置されておりさまざまな支援を行っています。現状では、主に桐径会（学校後援組織）に、教育活動・通学費用・寮運営費等の支援をしています。また、若桐寮（町営）の運営も町が行っています。

川口高校の設置及び管理は、福島県の責任において行われていますが、奥会津地域を含めた只見線沿線市町村にとっては重要な役割を担う教育機関です。本町をはじめとした近隣町村にとっては、通学が困難なことや経済的な理由で高等学校教育を受けられなくなる可能性もあることから、川口高校の存続は重要な課題です。

川口高校は、平成 27 年度は 125 名の生徒が学んでいます。昭和 23 年の創立以来、金山町や昭和村の中学校出身者を中心に、多くの卒業生が地域内外のあらゆる分野で活躍しています。現在の定員は 70 人となっていますが、生徒数は昭和 44 年の 434 名を最高に、本町をはじめとした近隣町村の中学校卒業生数が大きく減少している中で、定員を大きく下回る状態が続いています。少人数の利点を生かし、「一人ひとりが光り輝く主人公」を教育目標として、生徒一人ひとりの学習や進路希望に対応したきめ細かな指導と援助を行うことにより、毎年、国公立大学進学から就職までの幅広い進路希望を実現し、卒業後の進学・就職率はほぼ 100%となっています。

近年は、他市町村からの入学者が増加しており、地元からの進学者は生徒数の減少により減少傾向が続いています。通学ができない生徒のために寄宿舎が設置されていますが、金、土、日曜日については閉鎖となっていました。このため、平成 25 年度には若桐寮（町営）が建設され、更なる他市町村からの生徒の受入を可能とし、同時に土日に実家に帰宅することが困難な生徒にも対応できるようになりました。

高等学校の統合問題については、定員半数以下が 3 年間続いた場合は分校化、さらに 3 年間続いた場合は原則として募集停止となってしまいます。川口高校は、町内の生徒が自宅から通える唯一の高校です。さらには、地域の商業の活性化や J R 只見線の利活用などの役割もあります。町内や近隣町村の生徒数が増加することはあまり望めませんので、今後も、学校の魅力を打ち出し他地域からの生徒募集に力を入れて、川口高校の存続に力を入れていかなければなりません。

中学卒業後の進路は、川口高校だけではありません。それぞれの将来を夢見て、下宿をしながら、

または転出して高等学校教育等の新たな進路を求めるケースもあります。このような子供たちも、金山町で育った大切な子供たちであり、将来を担う大切な人材です。出身者として誇りを持ち続け、ずっと本町とつながっていく仕組みの構築が必要です。このことは、高等学校を卒業した後にも言えることで、進学・就職においては本町を離れることが多い傾向にありますが、その後もつながりを大切にしていく必要があります。同時に町は、出身者を中心とした I J U ターンの受け皿としての機能が求められます。

(2) 施策の方向

川口高校の学力水準をさらに向上させるとともに、人間性を豊かにし、スポーツや文化など一人ひとりの持っている多様な能力を引き出し、地域社会の要求に応えられるよう、近隣町村と連携をしながら学校運営に全面的に協力し、学校の発展充実と生徒の確保に支援を続けます。

町では、生徒確保を目的として生徒への直接補助を行っていますが、今後も、経済的理由により就学困難な者に対し、町の奨学資金制度を拡充するなど、より良い支援策について検討を進めます。

自宅が遠方のため通学が困難な生徒のために県の寄宿舎と町営の若桐寮とのサービスの均衡を保ちながら運営をしていきます。寮生が快適に高校生活を送ることができるサポート体制を構築します。なお、寮生が積極的に地域や町の行事に参加できるように柔軟な運営体制も作っていきます。

川口高校が今後も存続できるように、魅力を全国に発信し生徒の確保に努めます。また、学校そのものに全国に誇れる特色・魅力が備われば、自然と生徒が集まってくるので、特色・魅力ある学校づくりを支援していきます。

本町が関わったすべての子供たちが、その後もつながっていく仕組みを構築し、将来的に本町が I J U ターンの受け皿となり、いつでも町に帰ってくるができる土台作りを検討します。

(3) 実施事業等

- 県立川口高等学校の維持存続対策
- 学力水準の向上とスポーツや文化活動への支援
- 地域と連携した学習プログラムの実施・支援
- ボランティア活動や福祉教育など特色ある教育への支援
- 生徒募集活動の強化と魅力ある学校づくり
- 教育内容の充実支援
- 寄宿舎・寮の運営の支援・実施
- 町営寮の運営形態の検討
- 奨学資金制度の継続・強化と貸与決定時における慎重な審査
- 卒業後の通勤範囲内での就職先の確保（求人開拓）
- 川口高校及び町立小中学校の卒業生が町といつまでもつながる仕組みづくり

(4) 数値目標（KPI）・行動指標

項目（単位）	現状数値（年度）	目標数値（年度）
県立川口高校生徒数（人）	1 0 6（平成 26 年度）	1 1 0（平成 31 年度）

川口高校と地域の交流回数（回）	6（平成 26 年度）	10（平成 31 年度）
高校・大学等新卒者の町内就職者数 （人）	—	20（平成 31 年度まで）
川口高校への就職支援事業回数 （回）	—	13（平成 31 年度まで）

第 2 節 生きがいを育む生涯学習

1. 生涯学習

(1) 現状と課題

生涯学習社会の推進にともない、地域住民の学習に対する意欲は年々高まりをみせており、婦人学級や各種成人教育の充実や自主的学習のために、中央公民館と、川口、本名、沼沢、横田の旧村ごとに設置された 4 つの地区公民館を通じて必要な支援を行っています。

中央公民館において実施している、高齢者、中高年者の女性を対象にした「こまどり学級」は、参加者延べ 159 人、年間 12 日、延べ 35 時間の実績があり、健康、スポーツ、ものづくり、各種学習、研修旅行などの幅広い活動を行っています。

各地区公民館においても、それぞれ独自の事業を展開しており、地域住民自ら生涯学習を進め、地域のコミュニティ意識を高める生涯学習の拠点として運営しています。

生涯学習事業については、参加する人とならない人の両極化と固定化が進んでいます。また、参加者の中心が高齢者であるため、これ以上高齢化が進むと参加者そのものが急激に減少する事が予想されます。

地域住民の学習に対し適切な指導助言を行う社会教育主事、社会教育指導員、公民館職員及びその他の指導者の体制は十分とは言えません。また、リーダーシップを発揮できる人材の存在が不可欠であり、その確保が必要ですが、人材を確保することがそもそも困難になることが予想されます。

毎年 11 月 3 日（文化の日）には、地区公民館としての一大イベントである「地区文化祭」も開催されており、1 年間の学習成果の発表の場として盛り上がりを見せていますが、高齢社会を迎えている本町においては、行事を運営するマンパワーの不足が課題となっています。

中央公民館は、平成 26 年度に耐震補強やエレベータの設置等を終え、大規模改修工事が終了しました。今後は、ソフト面を充実させ有効的に活用していくことが求められます。あわせて施設全般的に、冷房設備を完備していないため夏場の使用は限定的になっています。

(2) 施策の方向

女性学級や各種成人層などが自主的学習を推進するため、中央公民館及び川口・本名・沼沢・横田の地区公民館において必要な支援を継続するとともに、生涯学習団体の育成や各種の学習活動を側面から支援していきます。そして、住民自らが生涯学習活動に参加する機運を高めるために、各種行事への参加促進を図ります。高齢者学級は、全員を対象とした一般教養、生涯にわたる能力開発から、園芸、陶芸、生活、福祉、文化など専門的なコース、趣味を同じくする高齢者のクラブ

活動など、高齢者が自ら選択できるよう対応するとともに、自主的な活動の支援を行います。指導者には、高齢者自らもあたり、趣味や技術のみでなく、伝統的な芸能・技法のある文化・工芸を小中高校生や若年層、移住者や大学生等に伝えることにより、新たな生きがいつくりにつながるよう推進します。

高齢学級による生きがいつくりは、健康寿命の延伸・増進に直接つながります。生涯学習の分野も多岐にわたり幅広い視点で推進します。町民個々のニーズに合わせて、過度な負担とならないように「好きなことを楽しんで学ぶ」姿勢を大切に推進していきます。

今後は、これまでの活動に磨きをかけることを最重点に、これまで欠けていた青年や若年層の女性、高齢者の世代交代などにも対応した魅力ある生涯学習のあり方を検討するとともに、社会教育主事、社会教育指導員、公民館職員及びその他の指導者の適正配置と資質の向上に努めます。

地区公民館等の施設は、建築してから年数が経過しているため、大規模な修繕が必要になっている施設もあります。また、施設全般に夏季中の使いやすさに支障をきたしています。今後は、地区公民館については、利用者の目線に立った公民館を第一とし、子供からお年寄りまで誰もが行きたくなる居心地のよい公民館になるよう、計画的に修繕しながら施設利用者の安全確保と利便性の向上を図ります。

(3) 実 施 事 業 等

- 中央公民館及び地区公民館へ必要な支援
- 生涯学習団体の育成と学習活動への支援
- 自主的な生涯学習活動参加への支援
- 高齢者学級による“生きがいつくり”
- 若年層や青年層等の男女問わず誰もが生涯学習に取り組める環境の構築
- 社会教育主事や社会教育指導員の配置と公民館職員の充実
- 老朽化する公民館施設等の改修と施設の充実
- 生涯学習施設等の利便性の向上

(4) 数値目標（KPI）・行動指標

項目（単位）	現状数値（年度）	目標数値（年度）
中央公民館及び地区公民館の利用人数 （人）	7, 508 （平成 26 年度）	8, 000 （平成 31 年度）
こまどり学級参加者数（人）	29（平成 26 年度）	30（平成 31 年度）
各種生涯学習企画イベントの実施回数 （回）	166（平成 26 年度）	200（平成 31 年度）

2. 生涯スポーツ

(1) 現状と課題

本町は少子化によって子ども達の外遊びの機会が減少しています。生涯にわたりスポーツに親しむことは、健康寿命の増進・延伸と“生きがい”に直結します。体力が低下している乳幼児・児童から、生きがいを求める高齢者まで、幅広い年代層を対象に、生涯スポーツを普及していく必要があります。特に日常的な軽運動は、健康増進にもつながりますので、町民の健康寿命の延伸には欠かせない分野です。一般に、生涯スポーツは競技スポーツよりも運動強度が低いのが特徴で、体力に過剰な負荷をかけることなく気軽に行える特長があります。

総合型地域スポーツクラブは設立していますが、スポーツ少年団が母体であり、剣道、スキー、バレーボールの3種目が活動していますが、少子化の進行による団員数の減少によって、活動については衰退傾向にあります。

高齢者対象のスポーツについては、グラウンド・ゴルフやゲートボール、ビーチバレーボールが主体です。人口層が厚い世代なので、比較的積極的な活動が行われていますが、参加者が固定化されている課題はあります。

若年層・中年層対象のスポーツについては、バレーボール、ソフトボール、卓球、野球などがありますが、どの競技も一部の興味がある方の参加にとどまっています。そんな中でもバレーボールにおいては、地区対抗や職域対抗等の大会が行われており、男女混合によるチーム編成等工夫が凝らされており、比較的競技人口が多いスポーツとなっています。

指導組織として設置されているスポーツ推進委員会を中心にスポーツ、レクリエーションの普及や地区運動会の開催、各種競技の審判員の育成などが行われています。

各競技の推進・運営は、町体育協会が中心となり、ソフトボール、バレーボール、ビーチバレーボール、グラウンド・ゴルフ、卓球などを自主的に行っています。ゲートボールは、金山町ゲートボール協会が自主的な活動を行い、地区ごとにチームが結成され高齢者の健康の保持増進を図っています。

ふくしま駅伝については、平成25年度から「希望ふくしま」チームとして、合同チームとして参加しています。金山町単独での参加は厳しい状況です。

町村対抗野球については、現在金山中学校に野球部がなく、県立川口高等学校にも野球部がない状態で、選手の若返りが進まず、選手の確保が困難な状況です。

町内で振興しているスポーツは、団体競技が主体で、個人や数名で気軽に行えるスポーツの普及が課題です。特に、個人で気軽に行えるウォーキングやジョギング、地域特性を生かした、スキーやスノーボード、サイクリング、登山、カヌーなどを推進していく必要があります。近年では、町内外のスキー愛好者による夏場のスキー場を活用したウォータージャンプの活動が始まり継続的な活用が望まれます。また、健康維持の視点から「かぼまる体操」などの軽体操を更に普及していく必要があります。

大塩総合グラウンド整備も含め、体育施設に各大会を誘致できるよう、より有効的な施設に整備していく必要があります。また、既存の体育施設についても、有効利用を図っていく必要があります。

(2) 施策の方向

幅広い年代層に生涯スポーツを推進して、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指します。

生涯スポーツ社会の実現には、住民の多様なスポーツ活動に対する要求に応えることができるようにしていく必要があります、体育協会等の組織と連携を取りながら進めていきます。

地区及び競技種目ごとのスポーツクラブ等の育成を図ります。また、住民が年齢や体力に応じたスポーツに親しむ機会の拡大と組織づくりを進めるため、スポーツ推進委員会を中心に各種スポーツ、レクリエーションの普及を促進します。スポーツ推進委員等スポーツ振興の核となる人材の育成を図ります。

ふくしま駅伝や市町村対抗野球や県民スポーツ大会等、競技スポーツの参加意識の高揚に努め、レベル向上を図ります。

少人数で気軽にできるスポーツ、健康維持増進のためのスポーツの普及を図り、さらには、スポーツと健康づくりの観点から各種大会や講座の開催や生涯スポーツ以外の各教室との連携を図りながら、スポーツを通じた健康づくりを推進します。また、地域資源や特性を生かしたスポーツの推進や、町外の方等が本町に訪れてスポーツに親しむことを推進します。

体育施設の運営管理のあり方については、大塩総合グラウンド整備をはじめとして、地域住民が日常において気軽にスポーツが楽しむことができるように、既存の体育施設の充実と老朽化した施設の改修、管理の行き届いていない体育施設の管理体制の強化を図り、誰もが快適にスポーツ活動を行い、健康の保持増進と生きがいつくりの推進に努めます。又、各大会に誘致を図り、より有効的な施設の活用をしていしながら、スポーツ振興に努めていきます。

(3) 実施事業等

- スポーツに親しむ生涯スポーツ社会の実現
- スポーツ少年団の存続と活動支援の充実
- 年齢や体力に応じたスポーツのあり方の検討と活動内容の充実
- スポーツ推進委員等スポーツ振興の核となる人材の育成
- 競技スポーツの振興
- 大塩総合グラウンド等の体育施設等の充実と老朽化施設の改修整備
- 住民のスポーツを通じた健康の保持増進と生きがいつくりの推進

(4) 数値目標（KPI）・行動指標

項目（単位）	現状数値（年度）	目標数値（年度）
スポーツ推進委員人数（人）	10（平成26年度）	10（平成31年度）
ふくしま駅伝・市町村対抗野球等の参加状況	参加 （平成26年度）	継続して参加 （平成31年度）
町民体育館使用回数（回）	478（平成26年度）	570（平成31年度）
各大会の誘致回数（回）	6（平成26年度）	10（平成31年度）

第3節 次世代につなぐ伝統文化

1. 地域文化の振興等

(1) 現状と課題

近年、教育文化の向上にともない、住民の文化に対する関心も次第に高まりつつあり、心の豊かさや生活の潤いなど、より内面的なものの充実を求める傾向があります。しかしながら、住民の文化鑑賞や参加の機会は少なく、文化協会を中心とした活動は活発に行われていますが、文化活動が広く住民に浸透している状況にまでは至っていません。

本町の歴史は古く、先人の生活を偲ぶ文化遺産が各地に埋もれ散在している状況にあります。過去には、町史編纂事業を通じ郷土の歴史や文化財に対する関心が高まり、金山町文化財保護条例の制定などによって文化財の調査が進められました。現在も文化財調査委員会を中心に、文化財保護のための取り組みは続けていますが、文化財の保存と活用を図るための施設整備は実施されていません。町が管理する民具についても、この保護と一般への常時公開などの活用も課題です。

地域文化が途絶えることなく、将来にわたって引き継がれ振興していく必要があります。また、独特な地勢を持つ本町の過去の成り立ちや営みなどの歴史・文化は、町民だけでなく出身者や観光客などさまざまな方々が興味を持つ魅力的なものです。これらを伝え振興させ未来へ引き継ぐ人材も必要とされています。

福島県指定重要文化財

名 称	所 在	名 称	所 在
宮崎聖観音坐像	中川字居平（大悲堂内）	旧五十島家住宅	中川字上居平

（平成27年10月1日現在）

金山町指定重要文化財

名 称	所 在	名 称	所 在
小栗山の道祖神	小栗山字堂平地内	水沼の道祖神	水沼字赤沢地内
山ノ内文書	横田字居平（山ノ内不二彦氏所蔵）	氏勝の馬具	横田字居平（山ノ内不二彦氏所蔵）
本名式縄文土器	本名寺岡地内より出土	宮崎式弥生土器	中川字居平地内より出土
中丸城跡	横田要害山	玉縄城跡	川口梵天山
糠塚古墳	大志字糠塚地内	石原経塚	大栗山字上石原地内
山ノ内屋敷跡	横田字居平地内	鮭立の磨崖仏	山入字石田山地内
宮崎館跡	中川字館ノ越地内	高屋敷中井館跡	玉梨字高屋敷地内
太郎布駒形ノ館跡	太郎布字沢田地内	廻戸の一里塚	沼沢字廻戸地内
鮭立のコブシ	山入字鮭立（意賀美神社境内）	大塩の老杉	大塩宇奈多理神社参道
高祖沼沢府君之碑	沼沢薬師寺裏	涅槃図	玉梨常楽寺

大志の子安観音	大志字乙越地内	キマダラルリツバ メ	金山町
---------	---------	---------------	-----

(平成 27 年 10 月 1 日現在)

(2) 施策の方向

日常的な芸術文化活動は、金山町文化協会を始めとする文化活動団体を育成及び強化を図り文化の振興を継続させます。今後は、早急に文化環境の整備充実を促進するために、暮らしの中に新たな文化を築き、地域社会に根ざした自主的文化活動を助長するための対応に努めるとともに、伝統文化の保存と継承を図るため、後継者育成と確保について検討を進めます。

歴史と伝統に基づく貴重な文化遺産や貴重な民俗資料については、掘り起こし、収集、保存、活用など、一貫した保護体制を確立し、散逸、破壊、滅失の防止に努め、将来にわたり適切に伝承するための対策を推進するとともに、文化財に対する愛護精神の高揚を図りながら、貴重な文化財の一般公開を推進していきます。

特色ある地域文化を振興させ後世へ伝えるため、また、学習や観光、交流など多方面な活用につなげるためにも、案内人の養成、学芸員の配置や文化財・古民具等の有効的な活用方法の検討、記録として残す活動の展開を検討します。

(3) 実施事業等

- 地域文化活動の推進
- 伝統文化の保存と継承
- 文化財の保護
- 文化財の保存と活用を図るための施設整備

(4) 数値目標 (KPI) ・ 行動指標

項目 (単位)	現状数値 (年度)	目標数値 (年度)
文化財保存・公開施設の設置状況	未設置 (平成 26 年度)	設置済み (平成 31 年度)
文化財調査委員の調査研究回数 (回)	—	3 (平成 31 年度まで)